

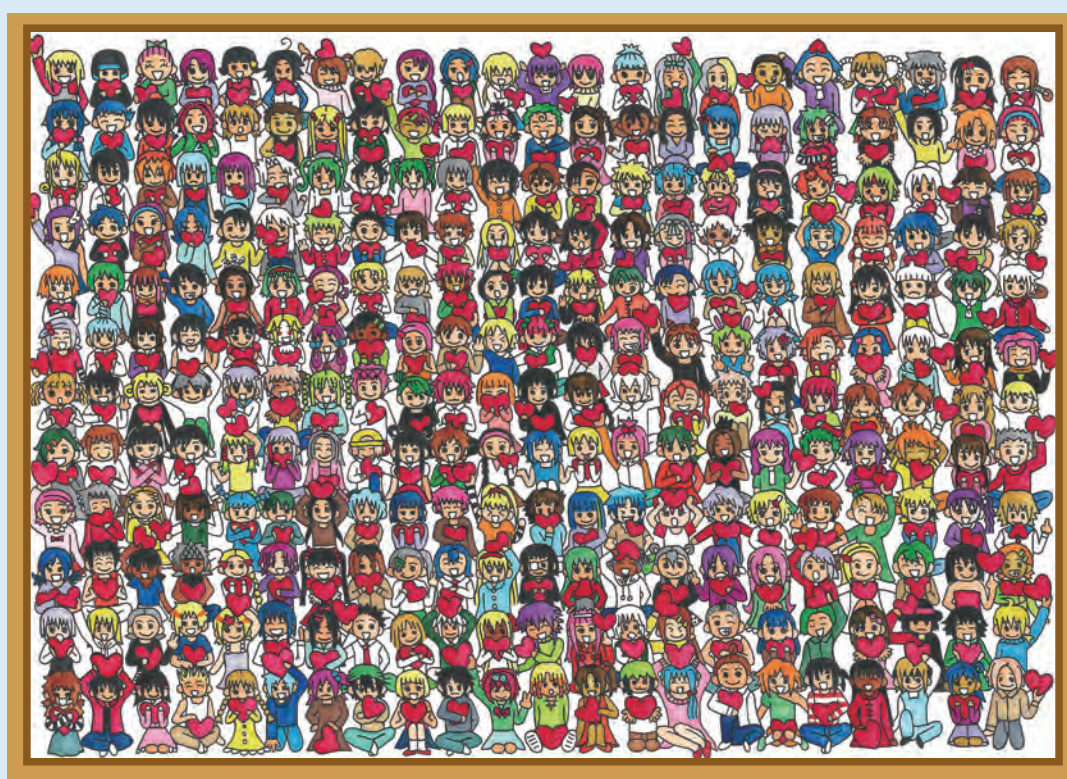
Vol. 180号

2026(令和8)年  
1月1日発行

# Colony Tokyo

# コロニーとうきょう

社会福祉法人 東京コロニー  
〒165-0023  
東京都中野区江原町 2-6-7  
TEL 03-3952-6166  
FAX 03-3952-6664  
<https://www.tocolo.or.jp/>  
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 55 旭 夏空さん 『大丈夫、愛はみんな持ってる。』(詳しくは13頁をご覧ください。)

時評  
とびくす  
2025 年度上半期事業報告

法人本部・コロニー中野・トーコロ生活支援センター・アートビリティ(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・コロニーもみやま支援センター(〒164-0001 中野区中野5-3-32)・トーコロ情報処理センター 事業部・職能開発室(〒164-0001 中野区中野5-3-32)・デジタルメディアセンター(〒170-0005 豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6F)・東京都葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石3-10-18)・コロニー東村山(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・東村山市障害者就労支援室(〒189-0014 東村山市本町1-1-1)・東京都大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロあおば就労サポートセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・えはらハイツⅠ、Ⅱ・中野江原短期入所・中野区日中一時支援(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)・とよたまハイム(〒176-0014 練馬区豊玉南2-3-9)・こあらハイツ(〒202-0013 西東京市中町3-10-9)・あおばハウスⅠ、Ⅱ(〒189-0002 東村山市青葉町3-2-2)

時評

# 法律と人権と約束

理事長 中村 敏彦

新年あけまして

おめでとうございます。

わが国の平和が続きますように

心より願います。

## はじめに

今年は「丙午」の年、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」と言います。過激になり過ぎないよう情熱的に活動して行きましょう!!

当法人事業の根拠法は「障害者総合支援法」で、この法に基づく支援体系は、自立支援給付と地域生活支援事業のふたつで構成されています。自立支援給付は、国が制度化した全国共通のサービス給付で、市町村が支給決定を行い、費用の大部分を国や都道府県、市町村の公費で賄うものです。一方、地域生活支援事業とは、市町村主体で行う地域密着の事業で、各自治体の創意工夫により柔軟に実施される支援施策になります。つまり、自立支援給付は、国の責任を明らかにした全国一律の権利としてのサービス、地域生活支援事業は地域ごとの実情に応じた任意事業という位置づけになると思います。

自立支援給付の体系では、大きく介護給付と訓練等給付に分類され、介護給付は、訪問系、日中活動系、施設系に区分され、訓練等給付では、居住支援系、訓練系・就労系に区分されています。

いまだ、なぜこんなことを書くのか疑問に思われるかもしれませんが、障害のある人の立場に立つて利用したいと思った時、本当に地域で自立した生活を実現できるのか、改めて考えてみたいと思いました。

私は、障害者総合支援法の支持者ではありません。むしろ抜本的な見直しが必要と考えています。本稿では、利用者の立場で総合支援法を評価し、法律と人権、約束をキーワードに書いてみたいと思います。

それにしても、2006年に施行された障害者自立支援法から20年、2013年に改名された障害者総合支援法から13年、3年ごとの報酬改定を含む見直しによって、複雑になり、使いづらくなっていることをつくづく思い知らされます。

## 使いづらい法律

### ① サービス構造が複雑

基本的な設計を利用目的別に細分化しているため、重複していることも多く、加えて、各自治体が独自のサービスや基準を設けているため、

何層にも重なりあって全体像を把握するのが困難です。

### ② 専門用語だらけ

使用用語が専門的で、かつ類似し、加えて、介護保険のサービスとも重複しています。また、度々見直されるので、自分の求めるサービス内容を理解するのにとても苦労します。

### ③ 対象者・条件などが限定的

本来、障害種別によらず利用できるサービスを一元化したという割に、サービスごとに利用できる障害の種類（身体、知的、精神など）や障害支援区分、年齢などの条件が細かく設定され、とても使いづらいです。

### ④ 手続きがとてつもない煩雑

サービスは自己申告が前提になっており、サービスの利用開始までには、申請、認定調査、審査、サービス等利用計画の作成など、たくさんステップと書類提出が必要で、面倒で仕方ありません。

### ⑤ 情報源が散乱

各自治体のホームページや相談窓口など、情報が複数の場所に散らばっており、必要としている支援や情報にたどり着くことが容易ではありません。また、住む地域によっては無いサービスがあり、地域格差が生じています。時には、相談支援窓口で「あっち、こっち」にたらい回しになることがあります。

### ⑥ 深刻な人材不足

ケースワーカーや相談支援専門員、各サービス事業の専門職などの人材が不足しています。様々な窓口では、支援職の皆様が個々の状況に合わせて必死に努力して頂いています。が、相当の負荷がかかり限界を超えていることが分かります。

## 法による人権無視

1931年「らい予防法」が制定され、絶対隔離・徹底的な断種対策など人権無視の異常な制度に悪化していきます。当初は救済のための対策でしたが、その後遺症から呪われた病など恐れられ、治療できる病と分かった後も続きました。

1948年に制定された優生保護法「不良な子孫の出生を防止する」ことを目的として、優生思想に基づき、遺伝性疾患や精神障害、知的障害のある人々に対して、本人の同意なしに強制的な不妊手術や人工妊娠中絶を行うことを認めました。

今では考えられないと思うかもしれませんが、そんなことはありません。いずれの法律も1996年、つい最近まで続いていました。

## 歴史が動いた大きな出来事

障害者を取り巻く環境には大きな節目があります。ひとつは、国際的



に障害者が団結して行動を始めるきっかけとなった1981年の国際障害者年。もう一つは障害者も他の者と同様に人権をもつ主体であることを国際基準とした2006年に採択された国連障害者権利条約です。

「障害者の完全参加と平等」をテーマとした国際障害者年は1976年に国連総会で決議され1982年の障害者に関する世界行動計画、1983年～1992年までの国連・障害者の十年と続きます。わが国ではこの時期から、ノーマライゼーションの理念が普及し、施設入所中心の施策に地域福祉を加える形で関連法や施策の見直しにつながっていきました。障害者に対して、気の毒だとか、助けたいと思うのではなく、何割かのハンディキャップを持った人たちがいるのが当然な社会であると、理念として整理されたことに大きな意味がありました。また、理念の浸透と共に障害者自身も、人に頼らず自立生活を目指すという気運が高まり、福祉理念の大きな転換の時でもありました。

障害者権利条約は、奇しくも、わが国で制定された障害者自立支援法と同じ年に採択されました。権利条約が求めていることを要約すると、障害者の尊厳、自律および自立の尊重、無差別、社会への完全かつ効果

的な参加および包容等を一般原則として示し、障害に基づきいかなる差別もなしに、すべての障害者のあらゆる人権や基本的自由を完全に実現することを確保し、促進するための措置を締約国がとることを定め、条約の効果的な実施を確保するために、締約国が国内における実施を監視する枠組みを維持し、強化し、指定し、または設置すること、そして、締約国が選出する委員から構成される障害者の権利に関する委員会を設置すること、などを求めています。

2022年には初めて日本の審査が行われ、総括所見が示されました。総括所見は、日本の障害者に関する法律・政策が父権主義的アプローチであることを懸念し、障害者も保護の対象ではなく、人権の主体と認める「人権モデル」に変えることを求めました。さらに、権利擁護や苦情解決、救済制度の設立・強化が求められ、とくに、国内で救済されない場合に国連に訴える個人通報を可能にする「選択議定書」の批准と、パリ原則を遵守した国内人権機関の設立が勧告されました。日本はまだ、選択議定書を批准していません。そして、一般の社会環境と障害者に限定した専用の場の分離した環境を懸念し、一般の社会環境に移行すること、ならびに分離された場の廃止を

目指すことを19条（自立生活と地域社会への包摂）、24条（教育）、27条（労働と雇用）で求めています。

医学モデルは、障害者の困難の原因を機能障害に視点を当てています。が、そこには、自己責任・家族責任・自助の強調、弱者とみる父権主義につながり可能性があります。社会モデルは、困難の原因は本人ではなく社会のバリアにあるとします。そして、人権モデルは、すべての人をもつ尊厳、人権、自由を障害者も等しく持つとし、機能障害は尊厳と権利に影響せず、機能障害は人間の多様性の一部であると解釈できるのではないのでしょうか。

## 法の制定と廃止、約束

2006年、身体・知的・精神の障害種別と障害児福祉を統合し、障害者自立支援法が施行されました。介護保険への統合は、当事者たちの反対により実現していませんが、利用契約や1割負担など、介護保険の一部を取り入れています。自立支援法施行後もなく、全国14の地方裁判所に71人の障害者・家族が提訴しました。原告は、障害ゆえの困難さに自己負担が求められた絶望を訴え、マスコミは、施設利用を断念した人の姿や、障害者世帯の無理心などを報じました。2009年、民主党

政権の成立により法の廃止が公約され、「基本合意」が結ばれます。基本合意には、国は十分な調査も障害者の意見聴取もなく施策を実施したことを反省し、これを繰り返さないことと約束し、市町村民税非課税世帯には利用負担をさせない、収入認定には、配偶者を含む家族の収入を除外、介護保険優先原則の廃止などの原告団・弁護団の指摘を十分に考慮することも約束されました。

## まとめに

繰り返しますが、基本合意は、国と違憲訴訟団との約束です。障害者自立支援法改め、障害者総合支援法には、基本合意が反映されなければなりません。制度は、利用する人に分かり易く、利用し易く見直すことが必要です。障害者福祉は確実に発展してきたとはいえ、福祉が商品化されたことで不正報道が後を絶ちません。また、この数年では、入所施設津久井やまゆり園で起こった殺傷事件、中央省庁などによる雇用率の水増し、雇用率ビジネスの横行、A型事業所の閉鎖と障害者解雇など、身近な問題として看過できないことが次々に起こっています。

今年こそ人権モデルを基調にして、障害者の暮らしが大きく改善することを願ってやみません。

# とぴくす

## T O P I C S

### コロニー中野

#### 地域の一事業所として

今年度コロニー中野では、「就労体験プロジェクト」の受け入れを実施しました。中野区社会福祉協議会の福祉何でも相談・ひきこもり支援事業や相談窓口に来た方で、就労体験を希望された方や必要な方に、体験の場を提供するというものです。

受け入れプログラムは一人三日間、一日の就労時間は2時間とし、11月と12月にそれぞれ1名ずつ体験していただきました。仕事内容は利用者さんへの支援業務ではなく、植栽や事務補助といった利用者さんと一緒に作業してもらうものを用意しました。お二人とも、何かしらの事情があり現在在宅で過ごされていたようですが、このプロジェクトに参加されたことを考えると、今の状況から何かを変えていきたいという気持ち



があったのだと思います。初めての場所、初めての人たちと、しばらくぶりであろう労働に、一生懸命向き合っている様子が伺えました。

利用者さんという点、プロジェクトの説明はしましたが、この人は何の理由でなぜここにいるのかすべてを理解するのは難しい状況の中、当たり前のように一緒に枝を切ったり、シュレッダー作業をしたり、道具の貸し借りで会話している姿もありました。他者受け入れの許容の広さと、いたずらに干渉しすぎない感覚の良さなど、私自身が学ぶべき場面もありました。

中野区では今、制度の狭間や社会的孤立により何にも繋がっていない方への支援が課題になっています。地域にどのくらいいらっしゃるか、どう把握していくか、どう繋げていくか、社会福祉協議会の事業のほか、中野区障害者自立支援協議会でも各部会で相談会を開いたりアンケートを実施したりしています。

就労体験プロジェクトに参加された方は、三日間の体験終了後、社協職員と振り返りを行い、今後の就労の希望や可能性について相談していくそうです。地域の一事業所として、地域課題にも取り組み、一人でも多く福祉に繋がる一助になればと思っています。

副所長 深田 雅美

#### 中野区仲町就労支援事業所

#### 三越／Let's Go -

11月の終わり、仲町就労支援事業所では日帰り訓練として貸切バスで川越に行く予定です。と、こうして原稿を書いている今はまだ出発前なのですが、みなさんがこの『コロニーとうきょう』を手にとっている頃には、きっと



私たちはすでに川越の街を歩き、ビュッフェで満腹になり、お土産袋を手には笑顔で帰ってきているは





ずです。

今回の行き先は「時の鐘」と「おいしいもの」で知られる小江戸・川越。歴史と風情を味わいながらの旅、と言いたところですが、個人的には「ランチビュッフェにどれだけ気持ちを整えて挑むか」が早くも課題となっておりま。旅は準備から始まる、とはよく言いますが、胃袋の準備も重要です。前日は「調整モード」に入る方もいるかもしれません。

参加予定は20名弱。最初に向かうのは川越氷川神社です。縁結びの神様として知られる場所で、絵馬や大鳥居など、思わず写真を撮りたくな

るスポットがたくさん。今から「お願いごとは何にしよう」とそわそわしている方の姿も見られます。良縁も、良い写真も、どちらも期待が膨らみます。

参拝後は、いよいよ川越プリンスホテルのランチビュッフェ。「まずはデザートから」の冒険派が現れるのか、「前菜から順番に」の正統派が主流なのか：当日の「食の戦略会議」が楽しみです。戦略的に、そして優雅に楽しみたいと思います。

午後は蔵造りの町並みと菓子屋横丁を自由散策。歴史の趣ある通りを歩くもよし、昔懐かしい駄菓子に心を奪われるもよし。視界に入るものすべてが小さな誘惑。「懐かしい、買っちゃおうかな」という声があちこちから聞こえる予感。心のままに、ゆっくりと街歩きを楽しむ予定です。ビュッフェで張り切りすぎて、食べ歩きの余力がなくなっていないことを祈ります。

この原稿を書いている今はまだ「想像の旅」ですが、みなさんが読んでくださっている頃にはきつと「思い出の旅」に変わっていることでしょう。笑顔あふれる一日になっていることを願って。

支援係長 石原 愛子

## コロニーもみじやま 支援センター

### 合同プログラムで紡ぐ絆

コロニーもみじやま支援センターでは、就労継続支援B型と生活介護と一緒に余暇活動を楽しもうという企画が2024年6月から年間3回行われています。11月で5回目のプログラムも終わりました。幾多の課題をクリアしながら定着した行事となってきました。

B型と生活介護では活動の場所がフロアー別に分れています。近所



に住んでいたり卒業校が同じだったり、顔見知りの方もたくさんいます。食堂や休憩時



間、行事の際などでB型・生活介護の利用者さんが共に会話をしている場面なども見られます。以前は作業などの日常の活動も一緒に行っていたこともあると聞きますが、利用者数の増加や多様化に伴ってそうした機会も減ってきています。

そんな現状の中で、同じ事業所の中で触れ合う場所が欲しいという声が利用者さんやご家族の皆さんから寄せられておりました。また、職員同士もミーティングで情報共有を毎日しておりますが、B型・生活介護相互にそれぞれの利用者さんの活動の様子をもっと知りたいという思いもありました。事業所として、行事とは別に、日常の中で利用サービスを問わない一体感のある活動を行いたいと始められた取り組みでした。

生活介護の利用者さんには医療的ケアとトイレ誘導があるために、長時間継続した活動は難しく時間の制

約があります。また、生活介護もB型も強度行動障害に対する配慮を十分に念頭に置いて計画をじっくりと立てて、下準備や人員配置を考えるうちに多様なニーズが出てきます。

第1回は盆踊り大会でした。いつも一緒にいないメンバーとの顔合わせが刺激となり、期待以上の盛り上がりとなりました。利用者さん同士普段交わらない顔合わせで写真に収まっていたり、ほのぼのとした余韻に参加者が浸ることができました。利用者さんは、「またやりたい。」「今度はいつやるの。」と楽しみにしてくださいます。同じテーマで何かすること、仲間として改めて絆が確認されているようでした。

その後も、盆踊りは定番で、〈手作り楽器の演奏会〉〈もみじやま公園へ外出〉〈プラパンでキーホルダーを作ろう〉〈交換あり〉など行っています。2つの班に分けて日程も2日にして、安全性がより確保できるように考えています。

普段一緒にいない利用者さんがむつまじく肩を寄せ合っている姿を見ると、準備段階の危惧よりも、利用者さんのエンパワーメントに励まされています。職員の方も、利用者さんの動き方や特徴を肌で感じ、把握できます。これは災害時の対応にも

応用できるのではないかと期待します。何よりも喜んでくださる笑顔に伝えていけたらいいと考えております。

生活支援課 木村 多恵子

## コロニー東村山

### 第43回コロニー祭を開催！

10月18日（土）、第43回コロニー祭を開催いたしました。今年も大勢の皆様にご来場いただき、会場は活気に溢れていました。



ステージではバンド演奏やコーラスなど、様々な出演者による熱演が繰り広げられました。中でも地元の子どもたちによるよさこい踊りは、元氣いっぱい演技に観客席から温かな拍手が送られ、会場全体が和やかな雰囲気になりました。また、景品がもらえるじゃんけん大会では、参加者の熱気で大変な盛り上がりを見せました。

印刷事業所ならではのオリジナルメモ帳づくりやカレンダー作成も大盛況でした。メモ帳づくりでは来場者の方々が思い思いの絵を描いて世界に一つだけの作品作りに夢中になり、カレンダー作成ではお気に入り写真を使って素敵な記念品を制作されました。また、子どもコーナーのストラックアウトも子どもたちに大変人気でした。

自主製品販売コーナーには、利用者の方々が心を込めて作った雑貨や小物が並び、来場者の方々が一つ一つの商品を丁寧に選んでいました。また、近隣の就労支援施設が出店する「ナイスハートバザール」も開催され、障害者就労支援のネットワークがさらに広がりました。

焼き鳥、焼きそば、飲み物などの模擬店も大人気で、今年は新たに台湾の屋台料理「チャーピン」も登場

し好評を博しました。食堂のカレー喫茶コーナーには行列ができるほどの賑わいでした。

今回はスタンプラリーも実施しました。各コーナーに設置されたシールをパンフレットに貼っていき、すべて集めると素敵なメモ帳がもらえるという企画です。会場をくまなく廻って、いろいろなコーナーを楽しんでもらいたいという思いから生まれた企画ですが、親子連れのお客様などが楽しそうにシールを集める姿が印象的でした。

今回のコロニー祭は、7月から実行委員会を立ち上げて準備を進めてまいりました。各コーナーにおいてもチーフを中心にメンバーが力を合わせて当日を迎えました。多くの方のご協力により、第43回コロニー祭を大盛況のうちに終えることができました。来年もお楽しみに！

コロニー祭実行委員長 東 道生

## トコロ青葉ワークセンター

日帰り旅行く電車で『西武園 ゆうえんち』へ行こう！

10月24日（金）、天候にも恵まれる





中、日帰り旅行として『西武園ゆうえんち』へ出かけました。参加人数は総勢100名を超える大所帯です。

電車組は9時に所沢駅へ集合し、グループごとに元気に出発。2回の乗り換えがありましたが、皆さんの協力もあり無事に現地へ到着することができました。バス組はトーコロ青葉に集合し、マイクロバスで現地へ向かいます。こちらも無事に到着することができました。

開園までの待ち時間には、「10年以上来ていなかった」「リニューアル後は初めて」「昔は空中ブランコに乗ったけど、今はどうなっているかな」「トーコロで西武園ゆうえんちに来るのは初めてだね」など、期待と少しの不安が入り混じった会話が聞こえてきます。しかし10時の開園と同時に、その不安は一瞬で吹き飛びました。高らかなファンファーレと音楽が鳴り響き、満面の笑みを浮かべた

警察官や八百屋さんなど、個性豊かな住人（キャスト）たちが熱烈に歓迎してくれたのです。私たちは瞬間に昭和の熱気あふれる非日常の世界へと引き込まれ、驚きと笑顔に包まれました。

「夕日の丘商店街」のアーケードでは歌と踊りのショーが行われ、手拍子とともに大盛り上がり。土産物店では、ここでもしか購入できない限定のお菓子やグッズに、皆さん興味津々の様子で商品を手にとっていました。昼食は、近隣の「掬水亭」にて。



提供された中華丼セットは大好評で、「今まで食べた中華丼の中で一番美味しい」「料理だけでなくお茶まで本当に美味しい」と絶賛の声が上がっています。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、帰路は再び電車組とバス組に分かれての移動です。帰りの電車ではホームを移動する場面もありましたが、皆さんの助け合いにより、無事に所沢へ到着。解散時の皆さんの表情には、非日常を味わった笑顔と、心地よい疲れが表れていました。

事業課3係 川崎 伸彦

## トーコロ情報処理センター

### 必要とされるために

トーコロ情報処理センター事業部では主にキーパンチを行っています。キーパンチャーという職種をご存じでしょうか？キーパンチャーはデータ入力業務ですが、手書きや印刷された書類のデータをパソコンではなく専用入力機に入力する業務で、高度なタイピング技術が必要な専門性の高い職種です。

キーパンチャーの歴史はアメリカでタイプライターが発明された



1829年に始まります。日本では以前まで、パンチカード穿孔機と呼ばれる機械を使い作業されていたと聞きました。そして現在では、見た目がパソコンとほぼ同様の入力機を使用しています。私たちが扱うデータには数字・カナ・アルファベットのみもありますが、キーパンチャーでも難しいとされる漢字（文字）入力もあります。

漢字入力はパソコンで入力する方法と異なり、それぞれの漢字に割り当てられた「カナ」または「アルファベット」を組み合わせた二文字を入力して行います。それを連想記憶方式と言い、例えば「男」という漢字一文字を入力したい場合、二文字の連想「ヒイ」と2タッチで入力します。男はheと連想して覚え、頭の中で漢字を二文字に連想し変換するので「おとこ」と3タッチで入力し変換するより速く打てるのです（スピードアッ

プができる)。キーパンチャーは、いかに早く正確（効率的）に入力できるかにより業務として成り立っているため、高い集中力が求められます。現在、データ入力業務はデジタル化が進んでいますが、まだまだ人の手に頼らなければならないものも多々あります。

科学技術が進歩し、AIが色々なことに応用されますが、私たちでなければできない仕事もあり、ますます精通している人が必要になってきます。

そのためにも、事業部の一員としてより良い仕事ができるように、もみじやまの事務所で日々研鑽を積んでいます。

事業部 高橋 耕介

## 東京都葛飾福祉工場

### 久しぶりの「かつしかフェスタ」開催

ここ数年、コロナ禍により「かつしかフェスタ」の開催を見送ってききましたが、コロナもひと段落したこのタイミングで、地域の皆様にも私たちの事業所を広く知って頂きたいという思いから、今年度は昨年竣工し



た立石工場で開催する運びとなりました。久しぶりの開催のため、流れや準備する物などの記憶も薄れつつあり、資料も議事録を参考にする程度で準備が始まりました。

以前開催した際は、各部署から実行委員を出し、毎月会議を開き、具体的に話を進めて行きました。しかし、今回はタイトなスケジュールのため、実行委員会だけの準備では間に合わないとの判断から、立石工場の役職者が、通常業務が忙しい中、開催に向けて会議を重ね、方向性を示してくれました。

また、7月下旬の開催で酷暑が想

定される時季であることから、熱中症対策も講じなければならず、当初予定していた屋外から屋内での開催に変更することとなりました。

当日は、かき氷・フランクフルト・スーパースポーツ・水耕栽培レタス販売・防災グルメ体験・防災用品ワゴンセール・ドリンク販売など事業所の模擬店に加え、近隣の福祉施設にも「クッキー・フィナンシェ」や「葛飾かりんと饅頭」などの和洋スイーツを販売していただく等、豪華ラインナップでした。

模擬店以外にも起震車で震度7を体験したり、「クラウンショー」ではパントマイムで盛り上がり、希望者には封筒工場見学ツアーにも参加していただいたりと、東京都葛飾福祉工場を、そして立石工場を皆様に知っていただく良い機会となりました。

何より会場には笑顔が溢れ、大成功を収めることができました。来年の「かつしかフェスタ」の開催が今からとても楽しみです。

生産事業部 製袋課 砂川 剛規

## 東京都大田福祉工場

### 笑顔満開！

### 大田福祉工場OB会

令和7年10月18日（土）、大田福祉工場でOB会を開催しました。

就職を目指す現利用者さん20名が、先輩の体験を通じて働くイメージをつかむことを主な目的に、元利用者さん（OB）11名と職員9名を交え、和やかな交流の場となりました。

当日は、開催の挨拶に始まり、OB・利用者さんの自己紹介、OBによる近況報告や利用者さんからの質問、交流ゲームのクイズ大会などが行われました。終盤には利用者さんからOBへの記念品授与や代表職員の挨拶、記念撮影もあり、終始笑顔の絶えない会となりました。

あるOBの方は職場で製造しているクッキーを持参してくださり、そのおいしさに皆さんが感動していました。また別のOBの方からは「就職する上で一番大事なのは意欲だと思ふ」という言葉があり、心に残りました。意欲を持って取り組むことが、良い結果や成長につながるのだと改めて感じました。現利用者さんからは「お話しする時間が短かった」「もっとOBの方と話したかった」と





いう声も聞かれ、先輩たちの経験や思いにもっと触れたいという前向きな感想が多く寄せられました。職員からは「OBと現利用者さんのコミュニケーションが取れていたのが良かった」「純粋に楽しかった」といった声が上がリ、世代を超えて笑顔が広がる温かい時間になりました。

会の途中には美味しいお弁当も振る舞われ、昼食を囲みながら和やかな雰囲気広がりました。特にクイズ大会ではテーブルごとにチームを組み、問題が出るたびに笑いや歓声が起こるなど大いに盛り上がりしました。最後には1位チームへの豪華賞

品の授与も行われ、参加者全員が笑顔で会を締めくくることができました。

今回のOB会を通して、改めてつながりの大切さを感じました。OBの方々が困った時に気軽に相談でき、安心して訪れることのできる事業所づくりにも取り組みながら、職員一同、より良い支援を目指して努めて参ります。

就労支援課就労支援係 市原 拓

## 地域生活支援本部

### リフォーム工事を行いました

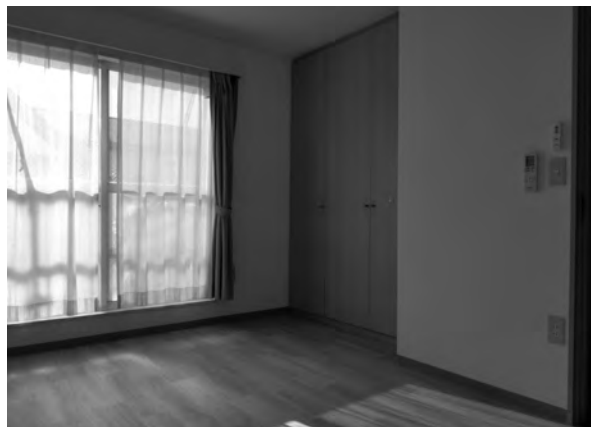
グループホームは、一人ひとりの生活を大切に、グループホームが「自分の家」としてリラクセスできるように、を理念として掲げています。皆で一緒に食事をしたり、入浴や洗濯の場面では順番を待ったりと、共同生活の側面ももちろん大きくあるのですが、私たちが一番大切にしたいことは、ここがどの方にとっても心地よく穏やかに楽しく暮せる「自分の家」であるように、ということ。そのために私たち支援者はお一人お一人の希望に合わせて個別に対応し

ていきます。入居者の皆さんにとっては「居室」は一番長く過ごす大切な場所。好きな家具やお気に入りのものを置いたりして、ご本人の思いだけでなくご家族の気持ちもいっぱい詰まった素敵な空間になっています。

東久留米氷川台寮では、開設時から居住されていた2名の方が退居されました。お一人は元々2階の居室でしたが、階段の昇り降りが難しくなったため寮内での引っ越し（1階の世話入室と居室を交換）も経験されています。お二人ともご自分の「家」としてここでの生活を楽しんでいらっしやいました。私たち支援者にとっても、お二人の居室は長年一緒に過ごした思い出のたくさん詰まった大切な場所です。

この夏、新たな入居者を迎えるため、居室と世話入室の合計3室をリフォームしました。壁・天井のクロスと床を張り替え、窓枠やカーテンボックスなどの木部のペンキも塗り替えて新しい居室が完成しました。8月には第一寮で1名の方が新しい生活をスタートされ、第二寮でも現在新しい入居者を迎える準備をしているところです。

開設して23年が経ちましたので、設備面でも次々に修繕が必要になり、



この夏は第二寮のシステムキッチンも交換し、室内だけでなく建物の周りを囲む広い庭に防草シートを敷く外構工事と隣家との垣根の剪定工事も行っています。

新しく入居されるお二人にとっても、ここが大好きな場所になりますように。

東久留米氷川台寮  
管理者 鈴木 一恵

# 2025（令和7）年度 上半期事業報告

※2025年9月末時点の報告書となります。

## 1. 総括

本年度は、感染予防対策を緩和しつつ平常時の事業運営に努めています。中期事業計画（2022年度～2026年度）は4年目となり、次期中期事業計画策定に向けて今期の総括や次期基本方針などの取りまとめの準備に入りました。世代交代も視野に現場からの声を反映させながら新たな視点も取り入れて策定することとします。6月に役員ならびに評議員の任期が満了することに伴い、新任の監事と評議員それぞれ1名を迎えて新しい体制となりました。

海外の長引く紛争には、国際社会全体で平和への懸念が増大しており、戦後80年の節目を迎えるわが国が、現在平和であることの有難みを改めて考えさせられます。また、自国優先主義のリーダーによる貿易摩擦や、円安による輸入コストの増加、エネルギー・原材料価格の高騰、世界情勢の不安定化、国内の人件費や物流費の上昇などが複合的に重なり、物価高騰はますます深刻化しています。加えて、前年度に実施された3年毎の障害福祉サービス報酬改定も重なり、経営にも大きく影響する状況となっています。引き続き、社会環境や経済状況の変化には緊張感をもって対応していくこととします。能登半島地震災害への支援対策として設置された日本障害フォーラム支援

センターは、今年度末まで延期することが決定しており、引き続き支援希望者を募っている状況です。

2022年、国連障害者権利委員会による日本の初回審査では、インクルーシブな社会への包容を強調し、父権主義的アプローチから社会モデルや人権モデルに調和することを総括所見で示しました。一方、わが国の障害者施策は、相変わらず福祉サービス報酬改定などのマイナーチェンジに留まっている状況です。引き続き、障害者権利条約を羅針盤として障害のある人の暮らしぶりの向上を目指し、関係団体と連携して様々な諸課題に取り組んでいきます。

## 2. 上半期事業結果と年度方針の達成状況

本年度の事業方針は中期中期事業計画を推進することを柱に、とりわけ、経営改善と人材確保・人材育成に努力しているところです。就労支援事業では、加工高の確保と障害のある人たちの就労の質ならびに処遇の向上、また、福祉サービス事業では、支援の質の向上に努力しており、期中の実施状況は次のとおりとなりました。

### (1) 経営の基本方針

・経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重んじた法人運営に努めています。福祉サービスの質的向上のため、

めに、第三者サービス評価機関の審査を受審し、苦情解決制度の継続や広報誌やホームページ等による情報開示を実施しています。

・虐待・ハラスメント防止対策に注力し、各事業所で発生した事案は委員会や所長会などをつうじて法人全体で共有し予防・改善に取り組んでいます。

・活動の視野を広げるために、中野区や法政大学のSDG&パートナー交流会に参加し、当法人の取り組みなどを紹介しました。国際交流では一般社団法人ゼンコロの活動をつうじて、インド・ベンガールの施設との事業交流やフィリピン・マニラで開催されたWASS（ワークビリティ・アジア）会議に出席するなど積極的に参加しています。

### (2) 法律・施策等改定への対応

・法改正や業務改善などに伴う法人の規程等を必要に応じて見直ししています。また、障害福祉に関する法律・施策、改定などに注視し、支援の質の向上に努力するとともに、公費報酬のない拠点との整合性にも配慮して、その都度協議しています。

### (3) 財務・資金管理

・会計顧問の指導を受けながら、会計基準により精度の高い管理に努

め、さらに外部会計監査人の指導を会計管理に反映させています。

・財務や資金管理について、法人本部が拠点間の窓口となって調整に努めており、各拠点の資金繰り状況を定期的に把握し常務会等で共有しています。

・市中銀行からの借入れは、理事会承認による年間計画に基づき実施しています。

### (4) 事業の継続

・常に経営改善に視点を置き、持続可能な事業への体質改善を図っており、各拠点ではBCPの見直しを適宜実施しています。

・今後の障害者福祉の動向などに注力し、他の団体等とも連携して活動することで事業継続の必要性の認識を高めています。

### (5) 人材確保・育成

・求人広告をホームページや求人媒体に掲載して人材確保に努め、人材育成には教育・研修を計画しています。具体的には例年通り新人研修を実施したほか、下半期には管理職を対象に2027年度からの中期事業計画を見据えた研修を予定しています。

・人事考課制度を活用して上長との面談等をつうじて風通しの良い職場環境づくりに努め、一人ひとりの活躍の場の充実を目指しています。



す。加えて、世代交代を視野に後継者の育成にも取り組んでいます。

(6) 他との協力連携

・障害者福祉の向上のために、各省市ならびに東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコ口、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター協議会、日本セルフセクター、東京都セルフセクターなどにおいて積極的に役割を果たしています。

また、従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援しています。

(7) 地域活動

・拠点ごとの地域活動においては、各自自治体との連携を深め情報交換を密にしながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めています。また、地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、重要な社会資源になり得ることを目指しています。

3. 各拠点の事業運営概要

担当理事制の管理運営により期中の各拠点の実施状況は下記のとおりとなりました。

(1) 法人本部(事務局)

法人全体および法人内の各事業が抱える諸課題への対応、事業運営における改善などにおいて役割を果たしています。常務会を中心に中期事業計画各課題の達成に取り組むとともに、次期中期事業計画立案の準備に着手しました。2024年度より開始した担当理事制や一部の事務統合は軌道に乗り、

安定した運営ができています。

(2) 地域生活支援本部(グループホーム、生活支援等)

地域生活を支援する事業として、グループホーム、短期入所、居宅介護事業等、特定相談支援事業を運営しています。5つのユニットを宿直から夜勤に切り替え人件費が増加したことや報酬改定による減収などで、資金面では厳しい状況が続いています。

(3) トーコロ情報処理センター(事業部、デジタルメディアセンター、職能開発室)

本年度より、職能開発室も統合して管理運営しています。法人内のIT部門として、基幹システムの安定稼働に対応する連携や、ネットワークを介して横断的に動き各事業所の要望事項に対応しています。業界全体の予算削減や価格競争を強いられるなど厳しい状況は続いています。経費削減に努力し事業の安定継続を目指しています。

将来を見据え、派遣によるネットワークエンジニアを年度内で終了し、内部人材で対応する検討に入りました。技術面の引継ぎと共に、人材教育・育成では研修やセミナーへの参加を促すなど継続的な課題として取り組んでいます。職能開発室のIT教育、在宅就労支援、情報利活用支援等の事業運営は、例年同様、主に自治体と企業の委託金ならびに助成金で進めています。

(4) コロニー中野

就労支援事業において、軽作業と飲食は好調に推移していますが、印刷関連事業等においては厳しい状況となっています。感染症対策としては7月からマスク着用を任意にしました。支援活動においては、実利用率は減少して

いますが、自立支援給付費収益は対前年比101.1%でした。事業活動収支では前年同期を上回ることはできませんでしたが、若干の黒字を計上しました。引き続き軽作業等の新規受注にも取り組み、安定した事業運営を目指します。

(5) 中野区仲町就労支援事業所

中野区との基本協定、管理運営業務に関する協定を遵守し、個々のニーズに対応した支援内容の充実に取り組み、感染予防対策も継続しています。利用定員は充足していますが、通所率の高いや、高年齢化による通所日の見直しなどにより、1日あたりの利用数は減少しています。今期中野区からの指定管理が満期になることから、次年度以降の第4期指定管理受託において中野区に事業提案を行い、指定を受けることが決定しています。

(6) コロニー東村山

就労支援事業では、デジタル化事業の大型整備を進めたことで、積極的な営業展開の体制を整えましたが、売上高の約90%を占める印刷事業の厳しい環境を考慮して、控えめの売上計画でスタートしています。印刷事業・デジタル化事業ともに営業努力や物価高騰による値上げ交渉が功を奏し、期中は、売上高・加工高で前年度を若干上回ることでできています。しかし、人件費高騰の影響もあり事業活動収支では前年を下回っていることから、下半期に向けて事業所全体で連携しながら改善を目指します。障害福祉サービス事業においては、合計80名の定員のところから上半期末の利用実員は68名であり、前年比でも4名減となっています。引き

続き、各部署で積極的に利用者受け入れ定員確保に努力します。

(7) トーコロ青葉ワークセンター

就労支援事業は、売上高・加工高とも計画を若干上回ることができています。前年度より作業方法の見直しなどを進めており、生産性の向上に取り組んでいます。積極的な受注拡大までに繋がっておらず引き続き検討していきます。就労支援活動には生活介護事業でも各種販売会に参加するなど、事業所間のネットワークを構築して日中活動の充実に努めています。放課後等デイサービス「アリーバ」は、日常生活の充実と自立支援のための活動や、多様な遊びや体験活動、地域交流の活動などもが主体的に参画できる活動などの要件を満たすことで都型を認可され、広範なサービス提供を行っています。

(8) コロニーもみじやま支援センター

年度当初に新規利用者4名を迎えて事業を開始し、期中に2名の新規利用者がありました。社会全体がコロナ禍の緩和に向かっていますが、感染時の重症化リスクは依然として懸念されることから、マスク着用や手指消毒などを継続しながら日常に近い活動環境を提供できるよう努めています。就労支援事業の売上は、特に軽作業において停滞気味であり工賃向上を目指して新たな事業展開を模索しています。福祉サービス事業においては、就労継続支援B型事業、生活介護事業、短期入所といずれも前年度収益を上回っていますが、報酬改定の影響などを踏まえて、さらなる利用率の向上や1日当たりの利用人数に着目して、充実した支援を展開することとしています。

(9) 東京都葛飾福祉工場

立石工場を建て替えて2年目となり、事業所祭り「かつしかフェスタ」を立石にて開催するなど、地域との連携を積極的に目指しています。防災の受注状況は、能登半島地震などの影響による特需のあった前年度に比べると厳しい数字になっていますが、過去5年間の同期実績と比較すると年平均を維持しています。支援においては、より良い職場環境・支援体制となったこともあり、就労移行支援事業の動きは活発化し2年ぶりに一般企業への就職につながりました。一方、金町・立石の2拠点での支援体制は組織力という面で課題を残しており、改善に向けて検討を始めました。

⑩東京都大田福祉工場

印刷事業の売上高は増収となりました。一方で、内製できる案件を中心に既存案件の維持継続や新規案件の獲得に尽力しましたが、外注費の増加もあり加工高は微減し加工高比率も下降しました。障害福祉サービス事業では利用者の減員が影響し、自立支援費収益は対前年比で若干の減少となりました。身体拘束適正化、虐待防止、ハラスメント防止などの人権にかかわる課題やヒヤリハット事案に即応した対応、感染症対策、災害対策、安全衛生に向けた活動について、組織的に体制を維持し対応を継続しました。

当事業所は本年4月で創立50年を迎えました。これまで多くのみなさまに支えられ、地域に支持共感される事業所として成長することができました。ここに感謝申し上げ、これからも発展・成長できるよう一丸となって努力してまいります。

表1 在籍者の推移

自2025(令和7)年4月1日 至2025(令和7)年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			上半期末 在籍者数
		増員		減員		自己都合	一般就労	疾病、その他	
雇用就労者	91 (78)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	93 (80)
事業・施設の利用者	432	15	(0)	19	(0)	13	2	4	428
その他	98	16	(0)	17	(0)	3	1	13	97
障害がある在籍者 (計)	621 (78)	34 (3)	(0) (0)	37 (1)	(0) (0)	17 (1)	3 (0)	17 (0)	618 (80)
障害がない在籍者	293	24	(3)	10	(3)	7	0	0	307
合 計	914 (78)	58 (3)	(3) (0)	47 (1)	(3) (0)	24 (1)	3 (0)	17 (0)	925 (80)

- (注) 1) A型従業員については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の () で再掲している。  
2) 増員および減員の各右欄には法人内異動を () で表記している。  
3) 「その他」にはグループホーム利用者・在宅パソコン講習生・放課後等デイサービス利用者・定着支援利用者を含む。  
4) 在籍者数には非常勤嘱託医を含まない。

表2 法人単位貸借対照表

第三号第一様式(第二十七条第四項関係)

(単位：円)

2025年 9月30日現在

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	4,400,295,782	4,689,038,379	-288,742,597	流動負債	1,481,193,575	1,766,111,193	-284,917,618
現金預金	2,800,029,374	2,577,159,330	222,870,044	短期運営資金借入金	400,000,000	400,000,000	
事業未収金	855,062,585	1,654,688,714	-799,626,129	事業未払金	603,211,542	933,237,333	-330,025,791
未収金	7,454,906	13,462,522	-6,007,616	その他の未払金	12,860,895	40,082,482	-27,221,587
未収補助金	10,968,605	6,654,653	4,313,952	1年以内返済予定設備資金借入金	12,978,000	25,956,000	-12,978,000
受取手形	1,896,259	25,047,592	-23,151,333	1年以内返済予定長期運営資金借入金	1,595,000	1,595,000	
電子記録債権	46,050,710	49,892,964	-3,842,254	1年以内返済予定リース債務	1,632,840	2,288,880	-656,040
貯蔵品	4,967,859	3,572,458	1,395,401	1年以内支払予定長期未払金	1,055,648	2,433,252	-1,377,604
商品・製品	381,830,160	312,963,188	68,866,972	未払費用	41,440,173	71,082,481	-29,642,308
仕掛品	19,998,602	14,219,426	5,779,176	預り金	19,970,567	15,886,540	4,084,027
原材料	13,134,457	13,273,477	-139,020	職員預り金	15,977,920	10,610,809	5,367,111
立替金	10,178,114	6,371,348	3,806,766	前受金	46,566,123	4,978,765	41,587,358
前払金	200,000		200,000	仮受金	778,868		778,868
前払費用	25,645,740	13,441,895	12,203,845	賞与引当金	146,703,142	190,656,789	-43,953,647
前払費用 (非資金)	2,131,611		2,131,611	未払税金等	229,847	67,302,862	-67,073,015
短期貸付金	195,354		195,354	仮受消費税	176,193,010		176,193,010
仮払金	37,330,276		37,330,276	固定負債	634,157,510	628,485,650	5,671,860
徴収不能引当金△	835,933	1,709,188	-873,255	設備資金借入金	263,066,000	263,066,000	
仮払消費税	184,057,103		184,057,103	長期運営資金借入金	28,405,000	28,405,000	
固定資産	5,095,779,807	4,967,641,556	128,138,251	リース債務	10,942,580	6,791,180	4,151,400
基本財産	3,425,716,059	3,480,960,852	-55,244,793	退職給付引当金	323,687,582	322,167,122	1,520,460
土地	812,128,671	812,128,671		役員退職慰労引当金	3,484,374	3,484,374	
建物	4,360,918,751	4,337,665,151	23,253,600	長期未払金	4,571,974	4,571,974	
建物減価償却累計額△	1,747,331,363	1,668,832,970	78,498,393	負債の部合計	2,115,351,085	2,394,596,843	-279,245,758
その他の固定資産	1,670,063,748	1,486,680,704	183,383,044	純 資 産 の 部			
土地	298,950,200	298,950,200		基本金	300,915,620	300,915,620	
建物	830,976,758	754,786,874	76,189,884	基本金	300,915,620	300,915,620	
構築物	165,917,945	165,917,945		国庫補助金等特別積立金	2,213,632,685	2,005,032,239	208,600,446
機械及び装置	731,129,983	712,241,393	18,888,590	国庫補助金等特別積立金	2,213,632,685	2,005,032,239	208,600,446
車輛運搬具	50,218,346	50,218,346		その他の積立金	298,361,973	343,361,973	-45,000,000
器具及び備品	535,084,616	374,565,606	160,519,010	その他の積立金	216,500,000	261,500,000	-45,000,000
建設仮勘定	701,500	30,000	671,500	移行時特別積立金	81,861,973	81,861,973	
建物減価償却累計額△	518,051,731	505,324,826	12,726,905	次期繰越活動増減差額	4,567,814,226	4,612,773,260	-44,959,034
構築物減価償却累計額△	98,855,158	94,174,888	4,680,270	次期繰越活動増減差額	4,567,814,226	4,612,773,260	-44,959,034
機械及び装置減価償却累計額△	640,366,463	632,391,150	7,975,313	(うち 当期活動増減差額)	-89,959,034	158,288,832	-248,247,866
車輛運搬具減価償却累計額△	49,985,418	49,855,044	130,374				
器具及び備品減価償却累計額△	298,723,174	277,616,578	21,106,596				
権利	16,500		16,500				
ソフトウェア	42,867,002	42,930,102	-63,100				
退職給付引当資産	294,744,036	294,780,576	-36,540				
その他の積立資産	298,361,973	342,361,973	-44,000,000				
差入保証金	2,217,430	2,167,430	50,000				
長期前払費用	23,227,903	5,444,745	17,783,158				
その他の固定資産	2,202,840	2,217,840	-15,000				
徴収不能引当金△	571,340	586,340	-15,000	純資産の部合計	7,380,724,504	7,262,083,092	118,641,412
資産の部合計	9,496,075,589	9,656,679,935	-160,604,346	負債及び純資産の部合計	9,496,075,589	9,656,679,935	-160,604,346



# アートビリティ Artbility ギャラリー 55



『大丈夫、愛はみんな持ってる。』

旭 夏空（あさひ なつぞら）さん

「コロニーとうきょう」の表紙として、今回、旭夏空さんの『大丈夫、愛はみんな持ってる。』を選びました。

「大丈夫」と言ってもらえると、なんだか安心でき、同じ顔が一人たりともいない旭さんのキャラクターが、みんなハートを持って微笑んでいるという、心が温かくなるような作品を、この寒い季節に是非ご覧いただきたいと思ったからです。

アートビリティのホームページには、ほかにも心温まる作品がたくさん登録されています。冬のひととき、ぜひお気に入りの作品を探しにお越しください。

## 【作家プロフィール】

兵庫県在住。

気持ちを擬人化し、キャラクターとして絵にすることで命を与えている。

夢は、憧れの小説家の単行本の表紙や、ミュージシャンのアルバムジャケットを描くこと。

2009年 「第3回 ニッケ ビューアハート イラスト大賞」ニッケ賞入選。

2017年 アートビリティ登録作家となる。

2019年 「第31回アートビリティ大賞」日立キャピタル特別賞受賞。

「第11回越前大野感性はがき展」佳作。

2021年 第6回「10×15の世界コンテスト展」入選。

「2021 かんでんコラボ・アート」審査員特別賞受賞。

2025年 「2025 パラアートTOKYO」入選。

■アートビリティ…障害者の所得支援を続けてきた社会福祉法人東京コロニーが、アートの分野で力を発揮する人材を後押しし、その才能を収入に結び付けるために始めた事業です。約200名の作家による6,500点以上の作品が揃ったアートライブラリーとなり、年間約400点の作品が使用されています。

## ご寄附のお礼

(2025年6月～2025年11月 総額 5,810千円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2025年6月 三菱商事株式会社 様

2025年11月 諏訪 康雄 様

2025年11月 小池 誠 様

◎文中の写真はご本人の了解を得て掲載しています。

ご協力の お願い	<p>社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方の就労や教育、生活を支援するために数多くの事業を行っています。私どもの事業を応援して下さい方（あるいは団体）からのご協力を下記を窓口で常時受け付けております。いただきましたご寄附は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取り組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。（社会福祉法人への寄附は、税金が一部免除になります。）</p> <p style="text-align: right;">ご寄附受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局 tel:03-3952-6166 fax:03-3952-6664 <a href="https://www.tocolo.or.jp/contact/">https://www.tocolo.or.jp/contact/</a></p>
-------------	--



# 東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ  
<https://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山ブログ  
<https://www.colony.gr.jp/colonyhigashimurayama/>



コロニー東村山  
<https://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター  
<https://www.tocolo.or.jp/dmc/>



アートビリティ  
<https://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場  
<https://ootafukushikojo.org/>



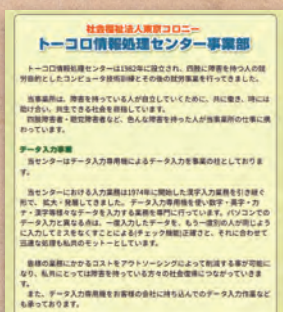
トーコロ情報処理センター職能開発室  
<https://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



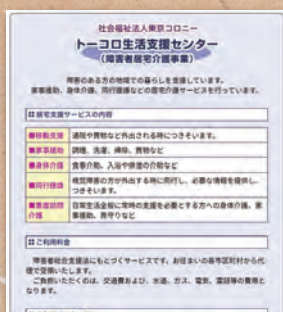
トーコロ青葉ワークセンター  
<https://www.colony.gr.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場  
<https://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部  
<https://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター  
<https://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム  
<https://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>



中野区仲町就労支援事業所  
<https://colony.gr.jp/nakatyoushienn/>



コロニーもみじやま支援センター  
<https://colony.gr.jp/momijiyama/>



コロニー中野  
<https://colony.gr.jp/colonymakano/>